

詠み人知らず



聖歌隊の
歌声響き
すみれ揺るる

私たちの教会は美しい音楽で満ちているところです。日曜日の主日礼拝の前奏では、オルガンの重厚な響きによってバッハ、ヘンデルやハイデンなどの曲が演奏されます。心を静めて神様をお迎えする大切な時間であり、私が教会で最も好きな時間のひとつです。また礼拝の中でも全員で賛美歌を合唱します。初めて礼拝に出席した時は、その歌声の美しい響きに圧倒されました。けれども回数を重ねるごとに、それは私達を愛し、恵んで下さる神様に信頼し、感謝し、そしてその素晴らしい神様を讃える歌であることが分かってきました。そして賛美歌がより深く心に響くようになりました。今では賛美は私にとって大きな喜びであり、神様を讃える歌を、皆様に負けにくいくらいに力一杯、心を込めてお捧げしています。



賛美歌誕生秘話「心くじけて」

賛美歌には、私たちの心を慰め、力づけ、神様を信じる心を沸き立たせるものがたくさんあります。今回ご紹介する「心くじけて」もそのひとつです。20世紀初頭のアメリカ、シヴィラ・マルティンという牧師夫人が、ある病気の夫妻を見舞ったときのことです。病床にありながら、彼らの表情が喜びに輝いていたので、その訳を尋ねました。すると、このような答えが返ってきました。「神様の目が雀の上に注がれており、私も見守ってくださることを知っているからです」。確かに、聖書にこう書かれています。

「五羽の雀はニアサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一只でも、神の御前には忘れられてはいません。」

彼らの返事に感銘を受けたシヴィラはその日のうちに詞を書き上げました。これが賛美歌「心くじけて」となり、今日に至るまで世界中の教会で歌い愛されています。

“私なんてどうせ・・・”と私たちはとかく思いやすいものです。私たちの周りには、私達を傷つけ、倒し、孤独と絶望に追いやるものが何と多くあることでしょうか。でも、そんなときにこそ、この賛美歌を思い出して、神様からの豊かな慰めと励ましをいただきましょう。

- | | |
|---|--|
| 1. 心くじけて 思い悩み
などで寂しく 空を仰ぐ
主イエスこそ わが真の友 | (おりかえし)
一羽の雀に 目を注ぎ給う
主はわれさえも 支え給うなり
声高らかに われは歌わん
一羽の雀さえ 主は守り給う |
| 2. 心静めて 御声聞けば
恐れは去りて 委ぬるを得ん
ただ知らまほし 行く手の道 | |

チャペルコンサート Vol.48

♪一緒に賛美歌を歌おう♪ **入場無料**

5/20(日)15:00～ 演奏・リード：
田中恵子(ピアノ)

昨年に引き続き、ピアニストの田中恵子さんをお迎えします。昔歌った懐かし曲から、誰もが知る有名なあの曲まで、賛美歌をたくさん歌います。賛美歌にまつわるエピソードを交えた、温かくて楽しいトークもお届けします。賛美歌に込められた癒しとぬくもりが、きっとあなたの心に残るはず・・・。



神戸市在住。日本イエス・キリスト教団神戸中央教会会員・同オルガニスト。関西聖書神学校器楽実習講師。更生就労支援講師。月一回ラジオ出演(福音の光)。2016年日本伝道会議賛美リーダー。

ケアプラン
デイサービス

オリーブの実

お気軽にお問い合わせ、
ご相談ください。

「ケアプラン オリーブの実」 「デイサービス オリーブの実」
☎:0797-73-6055 ☎:0797-73-6077

<http://hp.kaipoke.biz/gev/>

教会ホームページのバナーからもアクセスできます。

宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com <http://www.takara-eikou.com>

希望のダイヤル

毎週更新。24時間つながります。

0797-77-3746

ポッドキャスト

でも配信!

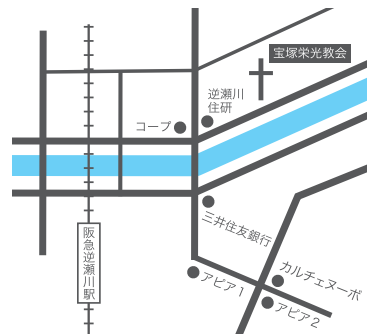
ホームページから

利用できます。

礼拝 毎週日曜日

10:30~11:40

わたしたちは統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく、正統的なプロテスタントのキリスト教会です。お困りの方はご相談ください。



喜びと平安の源泉

今年のイースター(復活祭)は4月1日。今年のこととは、イースターがその年によって移動するからです。春分の後の満月の次に来る日曜日をイースターとすることが、昔の教会会議で決められたのです。

イースターは喜びの時です。なぜなら、イエス・キリストが墓の中からよみがえってくださったからです。“死人がよみがえるなど、信じられない”と多くの人は言われます。イエス様の弟子たちでさえ、なかなか信じられなかったのです。

イエス様が復活された日の夕方、弟子たちは家の中に閉じこもっていました。戸も窓も締め切って、ガタガタ震えていたのです。自分たちの先生であるイエス様が十字架に付けられて殺されたのですから、今度は自分たちの番ではないかと思うと、恐ろしくてたまらなかったのです。

その日の朝、イエス様が葬られた墓に行った女性たちから、墓が空だったことを彼らは聞いていました。しかし、彼らはイエス様が復活されたのだと悟ることができませんでした。

かねてからイエス様が語っておられた復活の予告を思いだすことすらできなかったのです。

そのような彼らに、よみがえられたイエス様が現れました。戸や窓が閉めてあったのに、スーッと入って来られたのです。そして、いぶかる弟子たちに、十字架で受けられた手と脇腹の傷を示されました。その時、彼らはそれがイエス様だとわかり、喜びに満たされました。「こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。」(ヨハネの福音書20章20節)

悲しみは喜びに、恐れは平安に変えられたのです。喜びと平安の源泉は、復活のイエス様を見ること、信じることにあります。私たちの罪のために十字架で死なれ、よみがえられたイエス様を信じるところから、喜びと平安に満ちた歩みが始まります。十字架で罪が赦され、永遠のいのちをいただいたなら、この厳しい世の中であって、勝利をもって歩んで行くことができるのです。あなたもそのような歩みを始められませんか。



「エンドウ豆の花」

春になって
長いつるを どんどん伸ばして
実をたくさんつける エンドウ豆は
春の食卓の 楽しみのひとつだ
野菜売り場で エンドウ豆を 見つけた時は
春の訪れを いち早く 感じたものだ

ヨーロッパでは 古い遺跡から 発掘される
最も古い作物の ひとつだとか
もともと 地中海沿岸の土地で 自生していた種を
食用にしていたが やがて 栽培されるようになったとか

秋に種をまき 春に収穫する エンドウ豆だが
冬から春にかけて 薄紅色や 白 ピンクの花を 咲かせる
それから 実をつける

なんと かわいらしい 花だろうかと 目を凝らして 眺めると
少し 恥じらったような 表情に見えた
野菜の花は 人に見られることは ほとんどないから
たっぴり見て 喜んであげると 言っていた 農家の友人
味のよい おいしい エンドウ豆が 収穫できたのではと 思っている

いかに 幸いなことか
主を畏れ 主の道に歩む人よ
あなたの手が 労して得たものは すべて
あなたの食べ物となる
あなたは いかに 幸いなことか
いかに 恵まれていることか